ドカ雪激パウの八甲田

八甲田山(2023/1/28-30)

Ｌ：Ｍ上、Ｓ香、Ｈ口

バスの窓から見えた青森市内の電信柱は東京で見るよりもだいぶ高く伸びていた。今回は深夜バスと路線バスを使っての八甲田山行で、泊りはテントというスタイル。できれば酸ヶ湯辺りにテントを張りたかったが、天候に左右されずに動きやすい八甲田スキー場の近くで場所を探すことにした。

降雪の影響で深夜バスが青森駅に着いたのは９時近くになった。まずは山にこもるための買い出しということで駅近くにある青森市場へ行く。良さそうな魚と野菜をみつくろった後は市場食堂に入り中落丼定食をいただいた。漬けの中落がたっぷり乗った丼はボリューム、味ともに大満足で
「こっから始まったな」とＭ上さんが口にしたほどであった。そう、今回はＭ上シェフが腕を振るうグルメツアーでもあるのだ。

営業所留めで送っていたスキー板を受け取り駅前の停留所へ向かう。１０：５０のバスに乗るが、雪のため山道では道幅が狭まり普段より遅いスピードで走っている。レンタカーを借りなくてよかったなと思いながら外を見ていた。後で調べたら前の週には２１０ｃｍだった積雪がこの２、３日で３８０ｃｍにまで増えていた。

１２：３０頃に八甲田スキー場に着くとまずは食堂でスキー靴に履き替えテン場を探しに外へ出た。歩き回って駐車場裏手の斜面を少し下りた所で平らな場所を見つけたのでそこに張ることにした。
スキーで下をならしてから板を外してスキー靴で踏み固め４ｍ四方のスペースを作る。そこにテントを置き、張り綱の先に付けた竹べらのようなペグを埋めて完成。周囲から閉ざされた隠れ家的な場所であった。

今日は強風でロープウェーが運休していたのでせめてゲレンデで足慣らしでもしようということになった。
実はつい最近板を新調し今回が初滑りだったのだ。ところが限られたコースの斜面はコブだらけで滑りにくい。もう２本だけでいいやということになり早々にテントに戻って早めにビールを飲み始めることにした。

今回一緒のＳ香さんは僕より一回り以上も下であるが山の道具などについて結構詳しかった。
「よく勉強してるねぇ」とＭ上さんも感心していた。
『可愛い顔してあの子 割りとやるもんだねと♪』とあみんの歌が頭の中で繰り返す。さらにビール好きというのもいいじゃないですか。

頃合いを見てＭ上さんが夕食の準備を始めた。まずは市場で買ったヒラメの柵をナイフでおろし甘えびと一緒に刺身でいただく。次に鍋に湯を沸かすと口笛を吹きながらネギを刻みキノコを入れた。さらにカンパチの切り身を投入するとＭ上風漁師鍋の出来上がり。カンパチは煮ても油がのっていて美味しかった。

満腹と深夜バスでの寝不足で２０：３０にはシュラフに入ることになった。明日は何時に起きるか尋ねると
「早く起きたってロープウェーが動き出さないと上まで行けないんだから明るくなってから適当に起きればいいよ。」
雪は結構降っていてテントに当たる音が聞こえていた。

雪はまだ降りやまず、起き出すと周囲にこんもりと積もっていた。テントも雪で覆われていたのでスコップで周りを掘り張り付いていた雪を落とす。
朝食はＳ香さんと僕はラーメンだったが、M上さんは餅をサイコロ状に切って餅入りクリームシチューなんぞを作っていた。

食堂へ行ってロープウェーが動き出すのを待ったが風がまだ強くなかなか動かない。仕方が無いのでリフトトップからダイレクトコースを歩いて上がることにした。
リフトを降りて右へ行くとダイレクトコースにぶつかるはずだったが、トレースを辿って行くとどうもだいぶ行き過ぎてしまったようだ。
「じゃあ あっちに向かって行くしかないな。」
雪原のラッセルを始めたが雪が深く一歩一歩足を上げるのが重たい。途中から下りのトレースを逆行させてもらうとめちゃめちゃ楽だった。
まもなくしてダイレクトコースの上りに出た。リフトを降りてから鋭角的に射し込んでくるので見落としたのだ。ダイレクトコースは途中まで整地してあり歩きやすい。板がパタンと設置すると周りが舞い上がるほどの粉雪であった。

やがて整地が終わりその先にはトレースが伸びていた。後ろから８人のガイドツアーが付いて来ている。
「先に行かせますか？」
「先行こう。あれだけの人数になると時間が掛かるよ。」

休憩を含めて２時間近く上がった所に１０人組のスノーボーダーが溜まっていた。そして次々に奇声を上げて滑り出した。トレースはそこで終わっていた。
「我々も滑ろうか。」

滑り出したはいいが雪が深くてなかなか進まない。いったん止まると潜った板を引き出すのに苦労した。雪が多すぎるのだ。
しかし逆にリフトから下の昨日コブで滑りにくかった斜面はむしろ滑りやすくなっていた。
ひとまず食堂で一休みすることにした。ロープウェーは風の様子で動かしたり止めたりしているようだ。
再び動き出したのを確認して１４時ちょうどのロープウェーに乗り込んだ。
山頂駅に着くと先に出た添乗員が強風でタタっと２歩くらい足を取られていた。

板を履いてダイレクトコースを滑り出す。視界は２０ｍほど。コース両脇のポールは見えたが足元の凸凹がよく見えず滑りにくい。
さきほど滑り出した所より下はコースが適度に慣らされて先ほどより滑りやすくなっていた。

コースの途中でM上さんが右にトレースの付いた方へ入って行った。しかしそこは深雪の上に木々の多い斜面で下りるのが結構大変だった。板の先を取られてつんのめって倒れると板がなかなか引き出せず脱出するのに一苦労であった。
この荒行で今日はもういいやとなり、八甲田リゾートホテルの温泉へ向かった。

風呂上り、雪はようやく止み、テントに戻ると樹幹越しの空に青い部分も見えて気持ち良かった。これはビールが美味そうだ。

今日も口笛と共にM上シェフの腕が振るわれる。何と言っても一番はフライパンの上に乗せられた厚さ３ｃｍはあるキングサーモンの切り身。玉ネギを添えバターを入れて蓋を閉じた。焼ける音と蓋から漏れてくる湯気の様子をみて
「もういいんじゃないか」と蓋を取ると湯気の奥にはで～んと存在感あるまさにキングさんが横たわっていた。
さっそく一口、・・・！！ ありがとうございます。この油の乗ったボリュームたっぷりのキングさんだけでもお腹いっぱい心もいっぱいの幸せになった。
今日も２０：３０頃に就寝。雪の降っていない静かな夜でありました。

静けさを切り裂いてピーピーガーガーという大音響が聞こえて来たのは４時過ぎだった。昨日も雪が多かったので早目に作業を始めたのだろう。
今日の朝食もＳ香さんと僕はラーメンであるがM上さんはカニ雑炊と相変わらずの小技をお使いになっていた。

準備をしてテントを抜け出すと空はすっかり晴れ渡り今まで見えなかった岩木山が見えた。ロープウェー乗り場に向かうと月曜日だというのに外人さんや観光バスで着いた人達で長蛇の列ができていた。乗れたのは９：５０の臨時便。列の近くで外人さんと地元のスノーボーダーどうしが話しているのが聞こえた。その中で外人さんが「Ｔｈａｎｋ ｙｏｕ ｓｕｎｓｈｉｎｅ ！」と言っていたのが面白いなぁと思った。

一昨日昨日とは打って変わって今日は穏やかに晴れていた。ロープウェーから見える景色は山を覆う樹氷はもとより初めて目にする津軽半島や陸奥湾まで見える。
山頂駅に着くと板を持ったまま山頂まで上がった。広大な景色がそこにあった。平たい雪原の向こうに樹氷群と赤倉岳。「Ｔｈａｎｋ ｙｏｕ ｓｕｎｓｈｉｎｅ ！」と僕も心の中でつぶやいた。

雪原へ下りると田茂萢岳のもうひとつのピークに上って行く長い列が見えた。僕らは板にシールを付けて赤倉岳に向かって歩き出した。しばらくすると赤倉岳に登って行くパーティーも見えた。今日はバックカントリーたけなわだ。
しかしこのまま赤倉岳方面へ行くと帰りのバスに間に合わなくなるんじゃないかとなり、向きを変えて田茂萢岳のもうひとつのピークへ向かうことにした。踏まれてない雪原を真っ直ぐピークへと向かう。ジグを切らずに上って行けるほどのなだらかな斜面である。真っ直ぐ上がって行くのが何やら心地よい。
「そんなに急がなくてもいいよ」と言われたが、急いでいるわけではなく気持ちよく歩いていたのだ。

そこからの眺めはまた格別だった。
「せっかくここまで来たんだから『これが八甲田』って景色を見せられないと」とM上さん。
そしてロープウェーの軌道が見える方に向かってトラバースするように滑り出す。他に滑った跡の無い斜面では気持ちよい滑りを味わい、波打った斜面ではカニ歩きを交えながら進んだ。

「あっちへ行くと寒水沢を渡って下りて行けるんだよ」とM上さんが谷に向かってストックを上げた。しかしもう１１：３０になっていたのでノーマルに右方向へ向かうことにした。しかし直進できず右上方へカニ歩きを始めたがかなり上りが長い。
「板外してシールで登ろう。」
斜面で板を外すと足が股下まで潜った。シールは付けたものの板がなかなか履けない。早々に履き終えたM上さんが
「先に行ってトレースを作っておく」と歩き出した。
僕もようやく履けたが、S香さんはまだまだ手こずっている。上げた足がなかなかビンディングに入って行かないのだ。
「だいたいこんな所で板外しちゃいけないんだよ」と泣き言は出たが、ふてくされる一歩手前でやっと履けた。

上から続くトレースがある所でM上さんは待っていた。
「ずいぶん掛かったもんだなぁ」と白い歯を見せた。
木々の間を抜けていくとゲレンデのふりこ坂コースに出た。そこはとても滑りやすい快適な斜度であった。板のフィーリングを感じ、大きなターンで気持ちよく滑って下まで下りた。
「最後ミニツアーみたいのが出来て良かったね。」
時間は１２：３０になっていた。

撤収を終えて食堂に向かい荷物の整理をしたところで昼食にした。チャーシューメンを頼むと『焼き干し』のスープがとても美味しかった。
まだ時間に余裕があったので八甲田リゾートホテルの温泉に浸かり、そこでスキー板を送る手配をするとちょうどいい時間になった。

１５：２８の最終バスに乗り１７時に青森駅に着いた。駅前の郷土料理の居酒屋で打ち上げをして１９：４０発の深夜バスに乗り込んだ。
バス内では読書用のライトが点かず、カーテンに囲まれた狭い空間では何もできないので、結果的に一昨日、昨日よりも早い時間から眠りにつくことを余儀なくされてしまった。

初めての八甲田山、今回は体験版のようなものだったがなかなか面白そうな山域であることはわかった。ぜひまた訪れて主だったコースを味わってみたいと思う。

（H口 記）